

2026 (令和 8) 年 7 月 No.172

「想いに気がつく」

標高720mの山梨県北杜市の地。ぶどうのヤマソービニオンは、日本固有の「ヤマブドウ」と欧州の「カベルネ・ソーヴィニヨン」の交配から誕生しました。友人から自身が関わったこのぶどうで作られた国産赤ワインの感想を聞われましたが、料理に合わせてワインをいただく私には、あまり好みのものではありませんでした。しかし程なくして、多少ワインを嗜んでいる私の変な自信がいかに薄っぺらかったかと自覚しました。

この醸造家の想いを記したパンフレットに次のようにあります。「ぶどうの持つ本来の香りや風味を届けるため、敢えて木樽ではなくスチールタンクで醸造。酸化防止剤を最小限に抑え、果実の自然な姿を真っ直ぐに映し撮った誠実な味わいは、和食洋食を問わず、日常の食卓を優しく彩ってくれるでしょう。」

私はこの想いを片手に、心静かにワインをいただと、澄んだ空気の中、一本一本の木に低農薬で管理を徹底した木から、ぶどうを丁寧に摘み取る姿が見えてきます。これを拝見して、物事を行う際に、その想いを理解して臨むことがいかに大切なのかを学んだ次第です。

さて、昨今の葬儀の形態は、「直葬（葬儀をしない）」「一日葬（通夜をしない）」「通夜・葬儀」に分類されるようになりました。市民権を得た？「家族葬」は参列者の規模なので形態から外れますが、基本的には「葬儀をするか否か」です。

葬儀をしない「直葬」は、今から30年前に葬儀ジャーナリストの碑文谷創氏が問題提起の形で普及させた造語です。結局、この警鐘は生かされることなく、一つの葬儀の形態ができてしまいました。現在、直葬は葬儀社サイドが「火葬式」という呼称を使用するようになりました。

ところで、その直葬ですが、果たして葬儀をしないだけなのでしょうか？葬儀は「故人と遺族が受け入れ難い死を認める」ことを目的にしていると思いますので、これから直葬を選択される方は、直葬を執り行う中で、果たしてこのことがなされるかが肝心になると思います。葬儀に有って直葬に無いものに事前に気がつくことは、醸造家の想いのように、神仏や故人の願いでもあるように思います。

株式会社満口祭典 満口勝巳

沈香とはどういうお香でしょうか



じんこう
沈香の木・・・主に東南アジア諸国の熱帯地域で生育する「じんちやうげ沈丁花科アキラリア属」に属する木がもとになっていて、木に何らかの外的要因により傷が生じると、傷を修復するために樹液が分泌され、やがて樹脂に変化します。その樹脂の成分が長い時間をかけて変質し、特有の香りを放つようになったものが沈香です。その蓄積された樹脂からなる香りの成分によって、普通の木よりも重くなり、水に沈むのが特徴です。その特徴から「沈水香木」と呼ばれ、「沈香」の名前の由来となっています。

生成年数・・・沈香の元となる木が育つまでに約20年、沈香となるまでには50年掛かるとされ、さらに高品質な沈香となるには、100~150年以上の年月が掛かると言われています。

産地・・・ベトナムやタイ、カンボジア、ミャンマー、マレーシア、ラオス、インドネシアなど幅広く、それぞれの産地によって沈香の香りも異なります。

香り・・・産地や原木の種類によって少しずつ香りが異なりますが、基本的には「甘み」「酸味」「辛み」「苦み」「塩辛み」が複雑に絡み合った香りと表現されます。

特徴・・・一部の上質な沈香を除けば、常温の沈香から香りを感じることは少なく、150度以上で加熱することでその奥深い香りがより広がりやすくなります。紫外線に強く常温でも香りが揮発することが少ないため、長時間の保管に向いています。

最高級のお線香を小分け販売いたします

じんこう
最上級のベトナム産沈香を使用し、特徴である青さを引き立たせた爽やかな香りです。



小分け販売価格 20g 66本 1,800円(税込)

「縹風(ひょうふう)」は、京都の香老舗「山田松香木店」が手がける高級線香です。最上級のベトナム産沈香を贅沢に使用していて、沈香特有の深みの中に青みを感じさせる、清々しく爽やかな薫りが特徴の逸品です。

煙量：ふつう 形状：短寸スティック 内容量：約120g 長さ：約14cm 燃焼時間：約25分
販売価格：12,650円(税込)

瓢風は焚いていて心が穏やかで豊かになる、とても素晴らしいお線香です。(満口の感想です)ただ高額なので、なかなか勧めにくいのが難点でした。そんななか思いついたのが、小分け販売です。お試しいただいてお気に召したら正箱でご購入いただければ幸いです。

お申込みは、百具一心堂(満口祭典仏壇事業部) tel. 042-642-0922 かメール info@hyakugu-issindo.com をお願いいたします。 すばらしい「沈香体験」をお勧めいたします。

鎌倉萌え散歩

第9回 腰越界限



満福寺と江ノ電

江ノ島が手を伸ばせば届きそうな場所、それが腰越だ。これまで紹介してきた場所は、ほぼ鎌倉駅または北鎌倉駅を起点にしている。鎌倉市の東側が多かった。今回そこから大きく離れて、鎌倉市の西の端、腰越界限を味わい尽くしてみたい。江ノ電で行くと、腰越は鎌倉駅から八つ目の駅になる。次の駅は江ノ島だ。小さな駅なので、四両編成の全てが駅に収まりきらず、四両目はドアが開かないので、乗車位置には気をつけた方がよい。

界限で訪れるべき場所として、最初は「満福寺」である。腰越駅を出て、左に二、三分歩くとすぐに入り口がある。江ノ電の踏切を渡るとそこから石段になっていて、登ってみると小さなお寺である。ここは平家を倒して戻ってきた源義経が、頼朝のご機嫌を損ねて鎌倉に入れてもらえず、留め置かれたお寺なのだ。兄の怒りを解こうと書いた手紙が「腰越状」である。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、小泉孝太郎が演じた平宗盛が代筆していた。本物と言われる下書きが、お寺にはあるが、これは弁慶が書いたらしい。結局、義経の思いは兄頼朝に通じず、京都へ戻って行くことになる。兄に拒まれた若武者の胸中を思うと、境内の静けさがいっそう沁みる。ここでは歴史の甘酸っぱさと苦みを味わってもらいたい。



腰越状



小動神社

満福寺を出てきて、元の道を越えて海の方へ向かうと、国道一三四号に出る。その道を渡った向かいにあるのが「小動神社」だ。以前、「鎌倉の海」の稿で七里ヶ浜まで紹介したが、ここは七里ヶ浜の先にある岬で小動岬という。その更に西側には腰越漁港と腰越海岸がつながる。小動岬は、なんと八王子山と呼ばれていたのだ。源頼朝が伊豆に流されていた頃から仕えていた佐々木盛綱が、ここに近江国八王子権現を勧進したのが始まりらしい。我らの地元八王子もその名の由来は近江八王子権現が発祥地であるので、同じく分社に当たるとのだろう。ちなみに小動の地名は、風も無いのに枝葉が揺れ動いた霊木（小動の松）に由来するそう

お参りの後境内を見回すと、一段高い見晴台のようなところがある。ここは幕末に相模湾の防備のために設けられた番所跡だそう。川越藩が見張っていて、異国船が通ると通報していたらしい。登ると腰越港と江ノ島を一望出来る。お天気の良い日は富士山まで見えるとのことである。潮風を味わうにはもってこいである。

腰越駅まで戻ると、そこから江ノ電は路面電車となって商店街のど真ん中を走る。この道は電車通りと呼ばれており、界限では一番の見どころだ。江ノ電は、手を伸ばせば届きそうな距離感が魅力の一つだが、電車通りでは完全に人と車と江ノ電が一緒に生活している。江ノ電が近づくと、電光掲示板がそれを知らせ、車人や自転車はいそいそと道路の端に身を

文と画像 粗学 夢幻（そがくむげん）

十代の頃から鎌倉に暮らしてもうすぐ半世紀。ばけつつある頭を叱咤し、令和5年鎌倉検定3級を、令和6年2級を取得。鎌倉に住みたいと思いつつも八王子から通い続ける写真が趣味の昭和男子。



江ノ島と腰越港



電車通り

最後に味わうのは、腰越漁港から上がる朝獲れ生しらすである。早朝から船を出して、しらすが傷みづらい曳き網漁法で獲るのだ。九時頃に帰港するので、お昼にはありつくことが出来る。漁獲量は



龍口寺前 R28



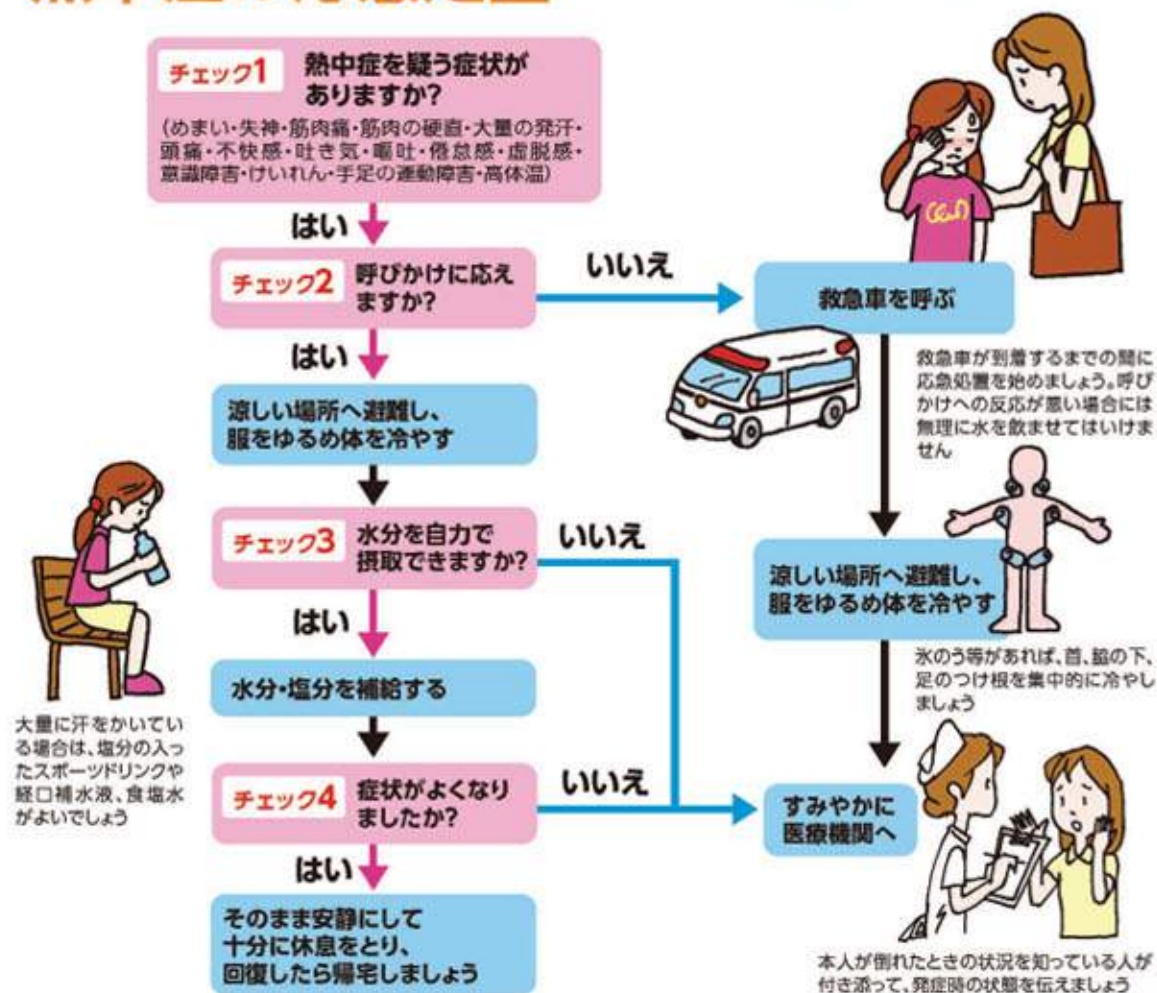
扇屋 江ノ電もなか

少なめだが、鮮度が良い。地物だからこそその圧倒的な美味しさなのである。生しらすと並び称されるのが釜揚げしらすだ。どちらが美味しいかは太い議論されるべきだ。とろける食感とほのかな苦みの生しらすか、ふくやかな食感と凝縮した旨みの釜揚げしらすか、実に甲乙付けがたい。しかし腰越で頂くなら、やはりそこそこしか食せない生しらすに軍配が上がると思うだろうか。湘南のしらすは、一月から三月上旬まで禁漁期である。その時期に行ったら食べられないことは、記憶しておいて欲しい。さて、次回はいよいよ最終回である。予想通りどこからも惜しむ声は聞こえてこない。私は少しだけ淋しさを味わう。

◆ 熱中症が疑われるときには…

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況を確かめて対処しましょう。最初の措置が肝心です。



車椅子であるく

ハワイ
Hawaii

伊藤 恵里子 最終回

今までは保険や車椅子がテーマでしたが、今回は思いつくままに書きます。十六年前に夫が他界し、五年前に父が亡くなってから、母・私・妹・私の娘、女三世代の賑やかな旅になっていて、複数での旅のメリットを感じます。今回の旅行でも、一人は母の車椅子を押して、残りの二人で四人分のスーツケースと機内持ち込みのキャリーバッグ計八個をなんとか移動しました。(一人二個の荷物は私たちの定番ですが、今回ばかりはもう少し荷物を減らしておけばと、ちよつとだけ後悔しましたが。)これが、もし、母と二人だったら、車椅子の介助と荷物移動で、飛行機が飛び立つ前にグブアップしていたかもしれません。

車椅子もしくは杖を使う人がいる時には三人以上の旅が理想だと感じます。車椅子ではなく、杖で歩けたとしても、誰かしら母のサポート役が必要ですから。トイレの時も、一人はトイレまで誘導しもう一人は荷物番。もし母ではなく父との四人旅だったらトイレの中で誘導することは無理でしょう。もし高齢者が男女性いる時は、付き添いも男女いると一番良いのでは思います。

トイレの話題が出たので、飛行機での

トイレの話を。今回は、偶然トイレが近い席でした。ハワイまで約八時間。トイレに行くのも一回ではないので、トイレに近い席は本当に助かりました。若い人なら人の出入りがあって落ち着かない・ゆっくり寝られないと敬遠しそうな席ですが、やはり高齢者が一緒だとトイレの近い席はありがたい！水分を控えることなく、安心して過ごせました。飛行機のトイレは非常にコンパクトにできていて手を出せばすぐにつかまる物もあり、高齢者にはうってつけだとも思いました。長時間のフライトは高齢者には体力的にきついかもしれませんが、トイレに立つことで体を動かしエコノミークラス症候群の予防にもなるかもしれません。

これも読者や家族の皆様も、杖が手放せないから、車椅子生活だからと、ためらうことなく、海外も国内もどうぞ出かけてみてください。きっと新しい景色に出会え、そこに吹く風を感じる事ができるはずです。

四回に渡り、思いつくままに母と一緒に車椅子旅について書きました。最後まで読んでいただき、ありがとうございます。いくつか皆さんの体験談なども聞かせていただけると嬉しいです。

体温を効果的に下げるための方法の例

- ・上着を脱がせ、服をゆるめて風通しを良くする。
- ・皮膚に濡らしたタオルやハンカチをあて、うちわや扇風機であおぐ。
- ・服の上から少しずつ冷やした水をかける。
- ・氷のうや冷えたペットボトルなどを、首、脇の下、足のつけ根にあてて冷やす。

「熱中症警戒アラート^(※)」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます。

※熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される日に発表する情報。令和3年度から全国展開。

QRコード→



イベント・セミナーのご案内

お葬式を考える！ 第1回 「いろいろなお葬式のかたち」

「お葬式」と聞くと、どのような形式を想像しますか？
仏式葬儀以外にも、神道やキリスト教式、それとも無宗教・・・など、いろいろな
お葬式の形があります。
どのようなお葬式の形があるかを知ること、ご自身の希望もはっきりとしてくる
と思います。一緒に考えてみませんか。

日 時 8月26日(水) 午前10時～11時

場 所 こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

定 員・参加費 各回 10 名・無料

お葬式を考える！ 第2回 「自分で決めるお葬式」

「私の葬儀はこうにしたい」というお考えはありますか？
人生最後のセレモニーに、ご自身の希望を取り入れることができます。
お気に入りの写真でご遺影を作成したり、ご家族への感謝の気持ちを伝えるなど、
思い残すことのないよう、様々な想いを形にしてみませんか。
生前契約のご案内もいたします。

日 時 9月29日(水) 午前10時～11時

場 所 こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

定 員・参加費 各回 10 名・無料

※ 2 回連続のセミナーですが、どちらか片方のみのご参加も可能です。

「人生観が変わるかも！入棺体験」～現役納棺師が葬儀や納棺について教えます

葬儀における納棺の実演や、納棺に関する様々な疑問・質問にお答えします。
希望者は、実際にお棺に入る入棺体験もできます。
ご納棺の儀式を是非体験してみませんか。

第1回 10月 5日(月) 午前10時～11時

第2回 10月22日(水) 午前10時～11時

定 員・参加費 定員 6 名・無料 まちゼミにも参加しています。

セミナーはお電話で、事前にお申込みください

TEL.042-642-0921

会場：溝口祭典 こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）

今回の表紙「カンナの花」・・・カンナはどちらかというと昔懐かしい花のようです。
私の大好きなカンナは、「行ってくるね」に、「暑いけどしっかり頑張れよ！」と応えてくれます。
これはカンナの想いのように聞こえますが…。ぜんぜん違ったりして💧（溝口）

こもれび7月号 2026(令和8)年7月15日 発行 第172号(次回は同年10月15日発行) «4500部発行»
発行/株式会社溝口祭典 発行人/溝口勝巳 ☎192-0063 八王子市元横山町2-14-19 TEL042-642-0921